「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿とは？」

２０２３．１２．２６　大分県教育委員会

CASE 43

1年生

「つるがこんなに伸びたよ。」

「先生！見て！見て！」

「ぼくのアサガオは葉っぱが増えたよ。」

「（私のアサガオ）〇〇ちゃん、今日も元気かな？」

「あさがおのけんこうかんさつをしよう」

（これまでの経緯＊ここでは概要のみ。詳細は別紙参照）

子どもたちは2年生からプレゼントされたアサガオの種をどうするか話し合い、大事に育てたいと、各自の植木鉢に植え、自分のアサガオに名前を付けた。愛着をもち、毎日水やりをして育てながら、アサガオの健康観察を続けている。本時は、植えてから、1か月半ほど経った日の授業の様子である。

協力校
竹田市立南部小学校

「今日もアサガオの健康観察をしましょう。」とめあての提示と共に授業が始まりました。子どもたちは前回6月7日のアサガオの写真と振り返りを見ながら、葉っぱの形や数、高さの変化等を出し合いしました。その後、教師は、「今日のアサガオさんはどうなっているかな？」と、教師のアサガオの写真を前出の写真の横に並べて掲示し、「先生のアサちゃんはどんなところが、成長していそうかな？」と問います。子どもたちは、「葉っぱが大きくなっているのでは？」「背が伸びていそう。」「葉っぱの数が違いそう。」「白い毛もちょっと長くなっていそう。」などと予想を出し合いました。教師は「たくさん変わっていそうだね。」と言い、今日の課題「アサガオはどのように成長しているかな？」を提示し、「いつものように眼を使ったり、さわったり、におってみたり、音も聞いてみて・・・なんて言っているか聞いてみてもいい。不思議だな？あれ？と思ったことも後で教えてください。」と話します。

子どもたちは、床に置いていたアサガオを机の上にしっかり抱えて机に運び、観察シートも鉢の横に置きました。そして、すぐに、自分のアサガオを覗き込んだり、葉の大きさを自分の手と比べたりしています。また、自由に席を移動し、友だちと「根元の色が違う。」「ねえねえさわって。」などと互いのアサガオを見合ったり、「ひげがめっちゃある。」「前より大きくなってる。このくらい。」などとそれぞれが気付いたことを口にしたりしています。教師は、「ねえ、ねえ、さわって」「見て！見て！」という呼びかけに応じながら「長さも調べている人もいるねえ。」「こんなに長いの？前ここまでだったのにね～。」「え～！すごいね。」と言葉をかけながら、子どもたちの間を回っています。「1，2，3・・・」と数えている子どもがいれば、「〇〇ちゃん葉っぱを数えてる。」などと、他の友だちがどんなことに着目して観察しているのかがわかるように皆に伝えたり、アサガオの様子をタブレットで写真に撮りながら、前のテレビに投影し、いつでも見られるようにしています。

アサガオの健康観察が終わると、「どう？おもしろい発見あった？どんな発見か聞いてみましょう。」という教師の呼びかけに、子どもたちは、「いっぱいひげが生えています。」「葉っぱが黒くなっていました。」などと、次々と自分が気付いたことを発表します。教師は、その都度、「なるほどね。」と言葉をかけながら、◎✋👂などの調べるカードの横に板書したり、発表した子どものアサガオの映像を投影したりしていきます。「20こぐらい葉っぱがありました。」「ぼくのは36こ。」「チクチクした。」「私も、さわったらチクチクしてかゆい。」「根元のところが濃い紫からうすい紫になっていました。」など、子どもたちは友だちの考えに応答したり、付け加えたりしながら、発表していきます。

「これ（つる）が長かったです。」とつるを持って話す子どもには、教師は、「どのくらいあったんでしょうね？立ってください。長いんですよね。手定規して、どこまで？」と皆を着目させます。いすの上に立った子どもは、つるを引っ張って伸ばして皆に見せます。教師が、「顔？前この辺までだったのにね。」と言うと「わ～長い。」「ぼくのも長くなっているよ。」と、見ていた子どもたちから、声が上がります。教師は「〇〇君や〇〇ちゃんが言ってたけど、これ何？このひもみたいなの？」とつるを見せながら、問いかけます。数人が「つる」と言うと、「つるっていうの？」と問い直します。子どもたちが、「うん。」「絡まってくるよ。」「棒を・・・」と言いかけたところで、「ちょっと待って。つるについて何か知っていることあるの？園のときのこととか？この長いつるについて教えて。」と、再度、全体に問います。すると、子どもたちが、自分のアサガオを指さしながら、「ここから花が咲く。」「これは早く長い棒をたてないと絡まる。」と発言しました。それを頷きながら聞いていた子どもも、「絡まって何日か経ったら花が咲く。」（つるの先を指さしながら）と、付け加えます。他にも、「ここにちいさな葉っぱが生えています。」「自分のつるがつると絡まっている。」と、気付いたことが出されました。

教師が、「これはつるっていうんだって、そして、伸びていくと絡まるかもしれないから、棒を立てた方がいいって。そのあとに花が咲くかもって・・・楽しみだね～。」と言うと、子どもたちからも、「うん！」「楽しみ～」という声が上がりました。

その後、教師は板書を示しながら、「たくさんの成長、変化があったね。」とまとめをした後、困ったことはなかったかを問います。すると、虫に食べられたことや黄色くなっている葉があることなどが子どもたちから出されました。水をたくさんやらないといけないという考えには、「やりすぎても枯れるよ。」や「お日様に当てるといいよ。」などという意見も出されました。『レッツ振り返り』の場面では、「お母さんにプレゼントできるかも？」「育つとつるが絡まるのがわかりました。」「アサガオが大きくなったのと小さな芽がかわいくてうれしかった。」などと感想が出されました。「まだ、健康観察したかった！」という声も聞かれ、アサガオの成長を楽しみにする子どもたちの気持ちが次へとつながっていくことと思われます。

教師の指導・支援及び留意点

- アサガオに名前を付けることで、愛着をもって育てられるようにする。
- アサガオの変化や友だちとの比較ができるように、写真を提示したり、タブレットで撮ったものをテレビに投影したりする。
- 「５つの調べるカード（◎✋👂👃💬）」を使って、継続して観察することで、変化をとらえやすいようにする。（定期的に観察シートに記入し、掲示していつでも見られるようにする）
- 次の課題や期待感へとつながるように、振り返りの場をもつ。
- 園での経験が想起できるような言葉かけや気付きを促したり深めたりする問いかけ等をし、子どもたちが主体的に考えたり、課題解決したりできるようにする。

事例から見られる幼児教育からのつながり

言葉による伝え合い

幼児期に、子どもたちは、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりして、言葉による伝え合いを楽しんでいる。

本単元では、「アサガオの健康観察をしよう」という単元を通しためあてをもち、「5つの調べるカード」をもとに、アサガオを観察してきている。

本時では、アサガオの成長を楽しみにしながら、その様子を比べ、気付いたことを友だちと伝え合ったり、その気付きや考えに共感したりする姿が見られた。また、これまでの園での経験等をもとに、これからどうなっていくのか、どんな困りがうまれそうかなど予想し、どうしていくといいのかも考えて発言している。自分の考えと友だちの考えを比べることにより、気付きの質が高まっていると思われる。

事例から見られる幼児教育からのつながり

自然との関わり・生命尊重

幼児期に、子どもたちは、植物を育てたり、遊びに取り入れたりする経験を通して、その不思議さに気付いたり、大切にする気持ちをもって関わったりしてきている。

本単元では、自分のアサガオに名前を付け、「〇〇ちゃん」と呼びかけながら愛着をもって育てている。本時でもアサガオを大事そうに抱えて机に運び、健康観察をしていた。観察する中で、成長の様子に関心をもち、その変化を喜びながら、友だちと話す様子も見られる。また、つるが絡まることや虫に食べられたり枯れたりしている葉などを心配し、命あるものとして大切にしようとする姿が見られた。また、これからどんなふうに成長していくのかを楽しみにしながら、世話の仕方を考えている。アサガオの成長の変化に気付き、親しみをもつとともに、大切にしようとする気持ちが育まれている。

【単元名】

きれいにさいてね　わたしのはな

【本単元の目標】

アサガオを育てる活動を通して、植物が育つ場所、植物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、育てている植物に合った世話の仕方や、植物が自分と同じように生命をもっていることや成長していることに気付き、植物への親しみをもち、大切にすることができる。

【幼児教育からのつながり】

- 自然とのかかわり・生命尊重
- 言葉による伝え合い
- 自立心
- 思考力の芽生え